

第73回日本皮膚科学会中部支部 学術大会を開催して

(2022年10月29・30日)

※富山国際会議場とWeb配信のハイブリッド開催

清水 忠道

富山大学医学部皮膚科学講座教授

はじめに

2022年10月29日・30日の2日間にわたり、富山国際会議場において第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会を主催しました(図1)。企画した段階では新型コロナの感染状況の予測は困難でしたが、状況が許せば直接語らい合う場になることを切に願い、現地およびWeb配信併用のハイブリッド開催にしました。穏やかな好天に恵まれ旅行者が増え始めた時期のためか約650人のご来場があり、9割埋まっていた会場もみられました。“ハイブリッドにすると来ないで済ませる先生が多くなるのでは?”という心配は杞憂でした。あちこちで「久しぶり!」の声。容

姿の経年変化とマスクのため、知り合いをみつけるのに苦労したという声もありました。対面での再会を実感できた学会でした。学会登録者も1,350人を超え、Web併用には「用事があり富山往復は無理だったが、一部分でも視聴できたのはありがたかった」との感想が寄せられました。

テーマ

今回の学術大会のテーマは「Time's arrow and evolution of Dermatology (邦題:時の矢と皮膚科の進化)」にしました。紫外線発癌研究の第一人者でありました、ハロルド・ブラムの名著であります『time's arrow and evolution 1951』をアレンジしたものです。皮膚科学の絶え間ない発展を願ってこのタイトルにしました。激しく変化する時代の中でも、私たちは後退することなく常に前に向かって歩み続けていかなくてはならないという気持ちを込めました。

鏡開き

厳重な感染対策をしたうえで、時間と人数限定の会長招宴会を開くことができました。鏡開きは学会の幕開けにふさわしく、翌日からの学会の景気づけになったかと思います(図2)。

プログラム

本学術大会の特別講演には荒瀬 尚教授(大阪大学免疫学フロンティア研究センター免疫化学研究室)、中邨 智之教授(関西医科大学薬理学講座)、佐

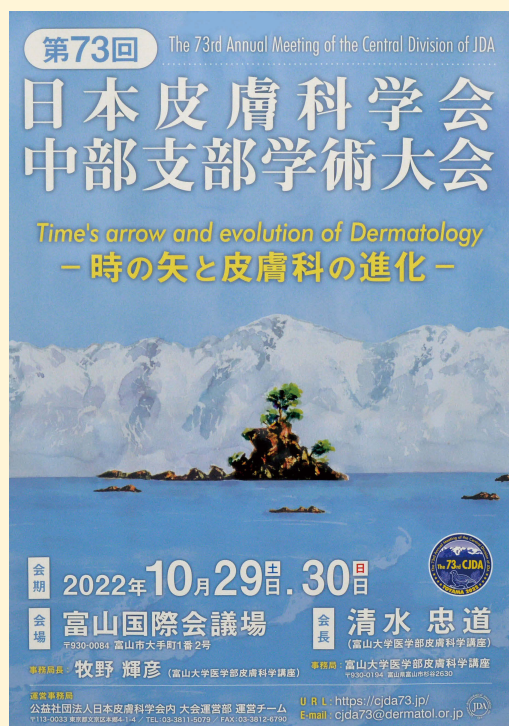


図1 大会ポスター



図2 鏡開き

藤 守俊教授(東京大学総合文化研究科)がご登壇くださいました。日常の診察とは違った視点の興味あるご講演に「勉強になりました」「こんなことができるのですね」などのコメント。さらに教育講演として「明日から使える! 皮膚潰瘍の診断と治療」「皮膚付属器疾患最新トピックス」「皮膚外科の極意」「ウイルス感染と腫瘍」「楽しく学ぶ! 皮膚病理」をエキスパートの先生方をお願いしました。シンポジウム、ミニシンポジウム、モーニング、ランチョン、スイーツ、イブニングのスポンサードセミナーには多数の企業にご協力いただきました。

ハンズオンセミナー

5年ぶりのハンズオンセミナーのテーマは「皮膚外科学へのいざない」「関節エコーの実践」です。参加者は皮膚外科志望または外科手技を学びたい多くの若手医師のほか「せっかく学会に参加するなら学んで帰りたい」「勤務先で局所麻酔をやってみよう」など意欲的な医師が多く、豚皮を用いて、デザイン、切開、縫合などの手技を行いました。実際に手を動かさないと



図3 ハンズオンセミナー

説明が困難な内容も多く、参加者は目を輝かせて「すごく勉強になります」と喜んでいました。少人数だからこそ各受講生のレベルに合わせ、マンツーマンできめ細やかに指導できたのはよかったと思います。全体で2時間というセミナーでしたが、最後は「もっとやりたい」という気持ちを残したまま時間終了となりました。指導者、参加者双方が大成功を実感したセミナーだったかと思います(図3)。

おわりに

ご講演、ご参加くださいました先生方、誠にありがとうございました。また本学会開催の事前準備や運営には、多くの方々にご尽力いただきました。事務局長をはじめ運営事務局の皆様、富山大学医学部皮膚科教室員、地域の開業医の皆様に心より感謝申し上げます(図4)。



図4 大会集合写真